

大牟田市立みなと小学校

1 本校のESDの特徴

本校区は、熊本県に隣接しており、校区内には、有明海沿岸道路三池港IC及びJR鹿児島本線、国道208号・十三間道路、船津町道路、三川町道路が南北に走り、交通量がきわめて多い。西側には、有明海、世界遺産となった三池港とその周辺施設が隣接している。地域の歴史は古く、本校で地域運動会が行われるなど、地域住民も本校に関心を持っている。旧三里小学校跡地には介護施設、また三川地区公民館も近くにあり、公民館の「出会いの文化祭」で4年生の児童が参加するなど交流も深い。

このような環境の中、福祉、環境、地域の文化を中心にして、地域を大切に作る心、問題解決学習や体験活動を積極的に取り入れている。また、本年度より海洋教育推進校となり、同推進校である天領小学校、天の原小学校とともにESDの視点に立った海洋教育に取り組んでいる。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

1年「さあみんなであかけよう」(生活科)

- ・自分と自分の周りの関係に気づく。

2年「レッツゴー町たんけん」(生活科)

- ・地域の人やもの、行事に親しむ。

3年「みなと校区じまん隊」(総合)

- ・みなと校区にある施設を探り発信する。
- ・有明海干潟体験【海に親しむ】
- ・みなと小 らんたん祭り

4年「三池港のひみつを探ろう」(総合)

- ・三池港の歴史、仕組み【海を知る】

5年「世界遺産だけじゃない三池港」(総合)

- ・大牟田市の干拓の歴史、三池港の役割、海上保安庁の仕事など三池港関連施設を調べる。【海を守る】
- ・大牟田子ども三池港ガイド本作り

6年「大牟田の魅力を発信しよう」(総合・国語)

- ・三池港を中心に、他の世界遺産とのつながりや大牟田市の未来について考える。【海を利用する】
- ・観光パンフレットやプレゼンにまとめ発信する。

★国語教材「町の未来をえがこう」から大牟田の町の未来を世界遺産でデザインする。

学年	3年	4年	5年	6年
単元	みなと校区じまん隊	三池港のひみつをさぐる	世界遺産「だけじゃない」三池港	大牟田の魅力を発信しよう
内容	干潟体験 有明海の幸	三池港の歴史 園球磨 干拓の学習	三池港周辺の施設 三池港クルージング	三池港と他の近代化遺産との関わり 世界遺産見学
子どもに体験・知識を	・干潟の楽しさ ・タイラギ ・ワラスポ ・ムツゴロウ	・三池港の総工費 ・関門の仕組み ・園球磨さんの言葉 ・独特の形の理由	・夜の工場 ・三池海水浴場 ・釣りスポット ・海上保安庁	・石炭をキーワードにしたつながり ・炭坑が現役だった当時の人々の様子 ・海から見た三池港の様子
表現	リーフレット 「知ってる？有明海にしかない生き物」 「気持ち悪い！けどおいしい！ワラスポ」 「干潟の人気者、ムツゴロウ」など	クイズ新聞 「三池港を作るのにかった費用は？」 「立派な三池港、何人でつくりあげた？」など	三池港パンフレット 「海の平和を守る！海上保安庁！」 「何が釣れる？釣り天国三池港！」など	観光パンフレット 「見て楽しい、食べて美味しい三池港！」 「三池港！学んで遊んで食べちゃって！」など

みなと小学校 海洋教育の流れ

3 特徴的な活動事例

< (事例1) 第3学年 総合的な学習の時間 >

(1) 単元名 「みなと校区じまん隊」

(2) ねらい

○【海に親しむ】をキーワードに、有明海でとれる魚や地域で消費されている魚の調査や、有明海の干潟で遊んだり生物を観察したりする体験を通して、有明海の海の幸の豊かさや干潟の楽しさ、大切さに気づくことができる。

○有明海の干潟体験や生物調べで学んだことを生かして「みなと小らんたん祭り」を開き、特別支援学校や天領小学校の児童を招いて、学習したことを発信することができる。

(3) 実践の展開

【課題設定】

①有明海の干潟に行き、生き物を観察したり、干潟に入る体験活動を行うことを通して、有明海の生き物を調べたり干潟の楽しさを伝えたりしたいという思いをもつ。

②有明海にすむ生き物や干潟について調べたいことを考える。

【課題追究】

①社会科の学習と関連させ、スーパーに売られている魚の種類を調べたり、お店の方にインタビューをしたりして、地域で消費される魚の種類について調べる。

②図書の本やインターネットを使ったり、お家の方にあずねたりして、有明海にすむ生物について詳しく調べる。

③地域で行われる「みなと祭り」に飾られるランタンについて知る。

【行動・発信・振り返り】

①自分が調べたことをまとめ、「みなと小らんたん祭り」やユネスコスクール集会で掲示する。

②有明海の生き物について調べたことをゲームにし、特別支援学校や天領小学校の児童を招待して、学習したことを、楽しみながら伝える。

③学習を振り返り、有明海的环境を守ることの大切さを実感するとともに、もっと詳しく有明海のことについて調べていきたいという意欲を持つ。

< (事例2) 第6学年 総合的な学習の時間 >

(1) 単元名 「大牟田の魅力を発信しよう」

(2) ねらい

○大牟田市の近代化遺産や他の世界遺産を調べることを通して、それぞれの世界遺産の特徴やよさ、三池港とのつながりに気づき、海洋教育推進校と交流しながら学習を深めていくことができる。

○【海を利用する】をキーワードに、3年生から5年生までの総合的な学習の時間に学んできた有明海・三池港の魅力を生かし、「100年先の大牟田の町」として未来像を描き、プレゼンにまとめて地域に発信することができる。

(3) 実践の展開

【課題設定】

①近代化遺産見学を行い、大牟田市各地に点在する近代化遺産と三池港との関わりについて調べる意欲を持つ。

②三池港の魅力を発信したいという思いや、大牟田市の歴史から学んだ石炭で賑わっていた頃の大牟田の町の様子から、大牟田市にたくさん来てほしいという願いをもち、100年後の大牟田の町をプレゼンにまとめるという課題を持つ。

【課題追究】

①インターネット、図書の本、インタビューなどにより、課題解決のための情報を収集する。

②他の海洋教育推進校と協力し、TV会議等を活用しながら、課題の解決を図る。

【行動・発信・振り返り】

①「100年先の大牟田の町」について模造紙やプレゼンにまとめ、「ユネスコスクール集会」や「海洋教育こどもフォーラム2018 in おおむた」、「東京大学でのポスターセッション(成果報告)」で、学習したことを発表するとともに、地域や市役所などに、自分たちの考えを発信する。



3年生 干潟観察



6年生 未来の大牟田の町を考える

4 本年度の成果と課題

○成果

・海に「親しむ」「知る」「守る」「利用する」をテーマに、それぞれの学年で取組を行ったことで、系統性を意識した取組となり、「海を通したESD」を実践することができた。

○課題

・海洋教育推進校として、大牟田市の学校すべてに取組を紹介し、カリキュラムを広げていくことが課題である。